

動物園飼育日記

—〈268〉—

亀井一成

〈王子動物園学芸員〉
写真撮影も筆者

アシカの旅立ち



「アシカを離乳期に死なせるな！」

我々飼育員の合言葉になっている。

全国的に見ても、当園の場合も新生児死亡ではなく、授乳し順調に成育しながらも離乳ができなまま四割という高率で、かわいいアシカの子が死んでしまうからだ。

【毎年六月、季節繁殖のアシカたち】

あの話題になるカルガモ一家もまた毎年三月頃三井物産本社ビル前の人工池に二羽の親鳥が飛来してくる。そして産卵し約四週間抱き続けかわいいヒナが誕生するのは五月中旬のこと、そののち約二週間、ヒナの成育を待った親鳥は、いよいよ人工池から皇居のお濠へとカルガモ一家が引っ越しするのも毎年きまった六月であることご存知のとおり。

アシカの繁殖もまた、毎年六月の初旬、きまつて一子を生む。つまり、どちらも一年サイクルの季節繁殖なのだ。

だがカルガモのように子はすぐにエサを拾って食べないアシカの赤ん坊は陸で哺乳をうける。



マサルを抱く筆者

大半が水中生活のアシカの乳房は、他の動物のように外にふくれていては泳ぎに不便だし、冷えてしまうことも問題だろう。だから彼等の乳頭は人間の小指第一関節か

ら先位、まことに小さくて、子が口先でつつくと、ピンと出てくるが口を離すと、皮ふ内に隠れてしまう。だからアシカの乳質は非常に濃くて、まるでチーズ状の乳で、子は、おちよば口で濃ゆい乳をゆっくりとしぼり出すような格好で飲んでいる。その成長ぶりは乳の濃さが示すように非常に早く、見る間に肥ってくる。

【瘠せはじめた離乳期】

野生なら回遊してきた大集団は繁殖地に上陸、動物園と同じ頃の六月、何千頭が子を生む。その子供たちは生後一カ月もする頃から、子獣ばかりの集団をつくっている。その子供群の中でエサを捕りあったり咬みあったりと自立への学習を受けていることがよく分る。これを我々はアシカの保育園とか学校と呼ぶ。

だが、動物園ではどうしても一頭二頭の子が生まれるだけで、つまり、独りっ子で育つことが多い。それが、自立を遅らせる結果になっているのだ。

だが、母親の体調は一年サイクルで常に変化が起っている。子の出産後、すぐに排卵期を迎え交配する。毎年、子の生後三カ月頃妊娠、子への哺乳を嫌いはじめる。それがまた子にとっては空腹に襲われ、離乳し、魚を捕食しはじめることになる。独り子では乳ばかり飲み、魚の捕食をしてくれない。その結果、せっかく誕生しながら生後十カ月頃、瘠せ衰え四割の子が死亡してきた。

「もう限界だ！」

アシカ池に飛びこみ、弱りきったアシカの子を助けあげたのは昭和六十一年三月二十六日。すぐ保温し太いゴムのカテーテルで人工ミルク

を注入。深夜の介添。そして二昼夜がすぎ、やっと回復。声を出し、糞もした。

しかし休まる間もなく餌つけをはじめたが、やはり食べない。

「そうだ」お袋さんみたいに口で魚をやってみたら、大成功だった。するりとアジを五匹も食べてくれた時の喜びは忘れることができない。

こうして餌つけに成功したのち、

おどろく程の育ちを見せはじめた。分離後六十日、体重十キロも増え二十三キロにもなった。

「親の元へ戻そう」。意を決して連れて行ったが、興奮した親たち。果して迎え入れてくれるだろうか、三カ月めの親子の対面である。

「あっ、母親がキスしてやった」

思わず胸をなでおろしたが、すぐさま子を池に追いやり遠ざかった。私はあの北海道のキタキツネの親離れのシーンを思い浮べた。

強く丈夫にとの思いから「マサル(勝)」と名づけたそのアシカの子、マサルは泣きながら泳ぐうち大波が起った。と、思えば、あのメスの三倍もある巨大なオスがマサルに近づいたと見れば、マサルを背にのせているではないか。

「父ちゃん」

まさに泣き伏せるようなマサルを見た。

【そして二年め、秋田県大森山動物園へ送る日】
激減する野生動物の導入は殆んど不可能になってきた。そこで我国の動物園間で稀少動物の繁殖のため、動物の交換や貸借(フリーデングローン)などの方法を行っている。



(上) 大きくなっても乳を飲むマサル(右)とカツコ(左)



(左) やっとエサを食べ始めた!!

神戸ではマサル誕生のあとカツコ(勝子)が育ち、更に現在二子

が成育中である。

そこでマサルは秋田県大森山動物園へ、カツコは上野動物園にこの程旅立って行った。

半年以上も前からマサルとカツコを親群から分離飼育をはじめたが、人手で回復したマサルは抱ける程私たちを覚えてくれていた。

輸送オリを見せても怖がらない。平気で入って遊ぶマサルに私たちの手がぶった。

「マサル、遠い所へ

行くんやで!」

オリをのぞきこむ飼育員の皆さんへもほほづりして、まだあいきょうをふりまいていた。

だが、ガタン、動きはじめたトラックにマサルもカツコも慌てふためいた姿、今も忘れられない。

秋田市大森山動物園からは元気なマサルの便りが届いたが、東京上野からは音さたがない。

「カツコ元気だろうね」

■毎週日曜日AM10時30分〜55分、テレビ朝日系列「テレビ動物園」に亀井一成さんが出演なさっています。

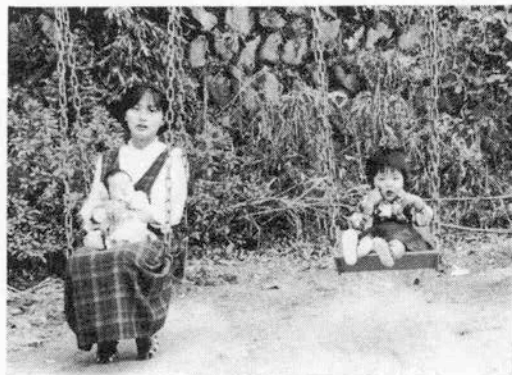
本誌とあわせてご覧下さい。



SAMOTO CLINIC

佐本
産科

ママといっしょに



ママ・清水靖子さん
長男・浩平くん (S.62.9.9生)
神戸市兵庫区在住

「元気にたくましく
でも優しさは忘れずに…」

★佐本産科・婦人科★

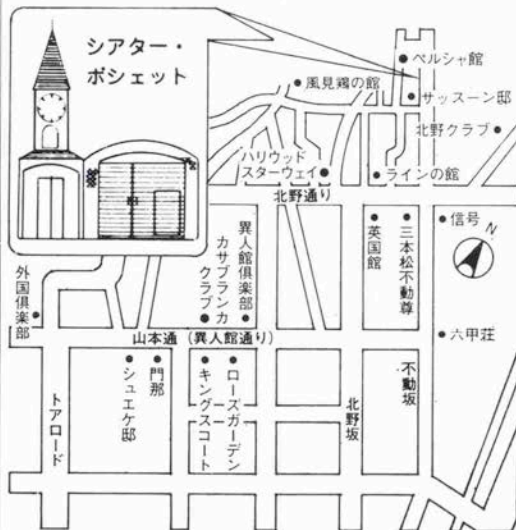
佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15
☎575-1024(病室)☎576-9639
市バス上沢4 停南スグ

実験交流サロン

シアター・ポシェット 3月の公演

- 13日(日) 13:30 ノイエ カメルコール
リサイタル 混声合唱演奏会
16日(水) 夜 フランス劇団 日仏協会主催
「カミュの異邦人」
19日(土) 19:00 劇団風斜公演
20日(日) 14:00 「かちかち山のブルートーン」
26日(土) 14:00 シアターファントマ公演
19:00 「鏡の中の
27日(日) 14:00 もうひとつの国」



★シアター利用のご案内

- 曜日、時間/土、日曜日(通常)AM10:00-PM8:00
- 費用/ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
- 付帯設備/グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー・テープレコーダー、マイク、映写機等
- お申し込み、お問い合わせ
そごう前センター街東南角、さんちか入口
〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5-1 住友銀行ビル6F
佐本小児歯科 佐本進 ☎331-6302~3



ポートアイランドの国際会議場での講演会

〔社団法人家庭養護
促進協会事務局長〕
橋本 明



“脳は使うことによって成長する” グレン・ドーマン博士が神戸で講演

新春の一月八日夜、北野町のカサブランカクラブで、米国・フィラデルフィア郊外にある「人間能力開発研究所」会長のグレン・ドーマン博士（68）来神の歓迎会が開かれた。ドーマン博士は子どもの早期教育や脳障害児の治療や訓練で日本はもちろん世界的に知られており、彼の著書「ドーマン博士の幼児開発法」（講談社）や「親こそ最良の医師」（サイマル出版会）は読者も多い。

今回博士を招いたのは同研究所・ジャパンオフィスで、所長の佐本進さんは16年前に神戸でのドーマン博士の講演を聴いたのがきっかけで、それ以後ドーマン法による障害児の治療に関心をもち続け、日本の障害児が米国の同研究所で治療を受けるための橋渡し役を務めてきた。

歓迎会の席でドーマン博士は「もし佐本さんがこの研究所のことを耳にしなかったら、お金と時間をもっと豊かな自分の生活のために使えたの

に。佐本さんを友達に持てて誇りに思います」と挨拶。この会には滋賀県の栗東から福永洋一さん家族もかけつけ、ドーマン博士と再会した。元騎手の福永さんは昭和54年3月、阪神競馬場でレース中に落馬し、回復の見込みは少ないと見られていたが、56年3月から同研究所の博士らの指導でリハビリの訓練を重ね、著しい回復を見せた。博士の問いかけに福永さんはこやかな笑顔で「サンキュー」と答え、しっかりと博士の手を握りしめていた。



熱弁をふるうドーマン博士

翌一月九日には同ジャパンオフィス主催のドーマン博士の講演会が「子供の知性を倍増させるために」と題

してポートアイランドの国際会議場で開かれた。二千人を超える人たちから聴講の申込みが殺到したが、先着順の七百人で会場は満員になった。

博士はステージの演台を離れて下り降り、参加者のすぐ前に立って三時間余りにわたって博士の長年にわたる経験から生まれた才能教育の理論を話しかけた。

「私は今日までに世界中のお母さんたちから何十万通ものお手紙をいただいたが、この40年間に二万人以上のお父さん、お母さん、子どもたちと顔を合わせてきました。多くの子どもたちは重い脳障害をもっていました。一方では知的、身体的、社会的に大変すぐれた、つまりルネッサンスの子どもたちもいます。重度の脳障害児たちと、大変すぐれた才能に恵まれた子どもたちとの間にはどんな関係があるのでしょう」という話から始

まりいくつもの例をあげながら、まだ解明されていない脳の未知の分野についてユーモアをまじえながら話が続いた。

博士の経験によれば、「どの子どもも生まれた時にはレオナルド・ダビンチが生涯使い果たした以上の才能を潜在的に秘めている。機械を使わなければ死んでしまうような重い障害児も素晴らしい能力を秘めている。人間の脳は研究すればする程恐れるものである。たとえば研究所をこの54カ月間に訪れた76人のまったく目の見えない子どもたちのうち、30人が訓練で本が読めるように回復したが、これは目そのものが見えないのではなく、脳の視覚経路に問題があったからです。左大脳の切除手術を受けた5才の女の子の場合は、右半身がマヒするはずなのに後遺症もなく知能指数も天才並みだった。

わたしたちは四十年間の研究を通して、脳の成長、発達、停止させることもできれば、加速させることもできる。脳は筋肉と同じように使うことによって発達する。外部からの刺激を強めたり弱めたり、何回もくり返して継続してトレーニングをすると才能を引き出すことができる」と強調した。

ジャパンオフィスではこの講演をビデオに収録し、希望者に貸し出しをしている。



上／北野町のカサブランカクラブでの歓迎会
下／ドーマン博士と再会した元騎手の福永洋一さん

■人間能力開発研究所ジャパンオフィス
神戸市中央区三宮町一の三の三 小林ビル6階
電話(078) 33110689

87年11月7日土曜午後2時45分、どんよりと重い鉛色の空から始まったニューヨークの街。初めての国に一人足を踏入れる時それがアメリカという大きな国、そしてニューヨークという世界の中の心的存在の街であると、感動に似たものを与えてくれる。私を迎えてくれたニューヨークの街は、

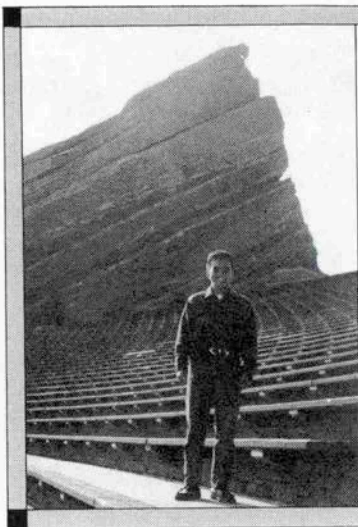
★出会いの旅

人種のるつぼ ZOO・N.Y.

中村 豊

シア・デザイン神戸 所長

デンバー レッドロック
コンサート会場にて



政治・経済・文化のペースメーカーとして世界に多大の影響力を持ち、クイーンズ、マンハッタン、ブルックス、ブルックリン、スタッテン・アイランドの五つの地区から構成されている。そしてその中でもひときわそびえ立つ摩天楼を有し、活気に溢れているのが今回「勉強及び視察」という名

目で探索したマンハッタンである。右往左往する人また人、車また車、翌日その中を右も左もわかわらないまま57th St. (ニューヨークに限らず、アメリカでは道路という道路には名称及びナンバーが付いていて非常にわかりやすくなっている) からチャイナタウンまで丸一日足を使ってホテル捜しにあげられた。足の皮がめくれ、鉛のように重い。交通機関を利用できるのだが、足を使って歩き見る方が色々なものを見ることが出来る。裏通りなど表通りにはない活気がありおもしろいものが見える。リトルイタリーの青空マーケットなど、その一つである。この青空マーケットだが、日本製玩具に始まり皮ジャンパー・毛皮とバラエティに富んだ物が所狭しと積まれている。人種もバラエティに富んでおり、肌の色が黄色から黒まで多種多様な人間がウジャウジャと蠢めいている。売り手買い手の品物をせり合う声、そして雑踏。活気が満ち溢れている。そしてもう一つ、チャイナタウンのはずれで見付けた小さなバググ店。関西弁を喋るだけでよこんでくれた大阪出身の日本人女性経営者二人。意気投合し三人で行ったレストラン。食事をしながら二人の話を聞いていると、この街でたくましく生きていることが伝わってくる。この店のあるチャイナタウンだが、一種独特の雰囲気を持っていて、この街に入るにしたがって異国の地(中国)ではないかと錯覚するほど、何か異質な雰囲気が漂っている。その原因は言葉で、この街の公用語が中国語であるからだ。英語も片言しか通じないほどである。だがこの街は生活感が滲み出ており暖かい。この街は好きになれそうだ。



◀5番街工事中のおいにもデザインがほどこされている。▲ウォール街の東端にあるサウスストリートシーボート。▶ウォール街に突如現われる200年前の教会



ニューヨーク四丁目、探索開始。5th Ave からブロードウェイを南下し、ウォール街を目差す。南下するに従って次第に見えてくるウォール街の高層ビル群。その摩天楼の狭間に突如現われる二百年前の教会。古いものと新しいものが渾然一体となった街並み。ウォール街に限らずダウントウンにも近代ビルと古い建築物が一つ一つとけ合って風景を形づくっている。このウォール街の隣接地区であり、今全世界で注目されているウォーターフロントのオアシスでもあるサウス・ストリート・シーボートが東側にある。バックにウォール街の高層ビル群をひかえ港には数隻のヨットが停泊している。ウィークデ이의昼下がりには、ウォール街に働くヤッピーたちの憩いの広場となる。この日は、霽混じりの雨が降り、ヤッピーたちは現われなかったが、代わりに日本の高校の修学旅行生が来ており、度肝を抜かれた。経済大国日本を象徴する一面面をかいま見たようだ。帰りイエローキャブに乗る。このイエローキャブの運転手の言った言葉が人種のもつばニューヨークをうまく表現していたので忘れられない。その会話の一片がこうである。“ニューヨークは色々な人間がいる。黒いの中から黄色まで、プエルトリカン、チャイニーズ、俺みたいなポーランド人もある。色々な人種、色々な国の人間が見ることのできるZOOだ”。的をえた表現である。ニューヨーク最後の夜、エンパイア・ステートビルのスカイデッキに立ち、不夜城のごとく摩天楼が林立するニューヨークの街を見ると、そこに息づくパワーがダイレクトに伝わってくる。翌日早朝ニューヨークの街を後にし、ボルチモアに向う。

記題のひろば

<I>

■ラジオ関西・日本テレビで

只今“ダンスと 空想”花ざかり



「ダンスと空想」の朗読を続けていたらピンクの服が着たくなると、田辺聖子センセに話す三林京子さん



下はグーニー北野店で、三林京子さん、加藤宮司を囲んだ“マカンブッサール”（小説ではベルフィーユ）の面々

田辺聖子さんの「ダンスと空想」は、ポルトビアルの頃、「神戸のPRよ」とサンデー毎日に連載され単行本になった作品。

この本の、モデルになったのは、当時「マカンブッサール」（マレー語で大食漢）という名の働く神戸の女性たちの、食べ歩きの会のメンバーたちで「ベルフィーユ」の名で登場している。神戸はいま女性時代」とゲンキのいい自立する女性達が、田辺聖子さんの筆で軽やかに明るく、ビビッドに描かれファッション都市神戸の大宣伝になっている名作だ。この作品が、また今年になって浮上してきた。

ラジオ関西の「阪神奥さま文庫」（高梨プロデュース）で、三林京子さんが1月1日～2月29日まで、毎朝11時40～50分の間に朗読して大変な人気。

日本テレビは、「ぶらり日本名作の旅」で「田辺聖子ダンスと空想神戸の旅」として、レポーターには萩尾みどりさんが出演し、神戸の女性たちとお店を紹介するという演出。放送は3月13日（日）読売TVの午前10時～10時30分の30分番組として全国に流れる。

朗読に出演した三林京子さんはぜひモデルの神戸の女性や男性に出会いたいと、彼女を囲む食べる会が、グーニー北野で開かれた。

「この小説に影響されて、髪はひつつめがボブヘヤーに、お洋服は黒がピンクになつてしまったんですよ。信じられへんわ」と、気さくな彼女は神戸風に変身。只今「ダンスと空想」ざかりである。

話題のひろば

<II>

二月は愛 中世のイタリアが

□ ウンブリア州・テルニ市から神戸市へ



左上はさんちかタウン「バレンタインコンサート」に出演したアンサンブル・ミクロログス。右上はパーティ会場で「二月は愛」の大合唱。下は松宮モロゾフ副社長、植野モロゾフ社長、ウンブリア州観光大臣、テルニ市観光局長などと共に乾杯。

今年も愛の使者たちが、聖バレンティンの生誕地イタリア・ウンブリア州テルニ市から神戸へ、二月十一日に総勢約十五名でやってきた。日本のバレンティンデーを仕掛けたチョコレートのモロゾフ株式会社（植野信徳社長）の、松宮副社長が、聖バレンティンのルーツを求めてイタリア旅行の際に生誕地のテルニ市を訪れたのが交流のきっかけ。

昨年は、さんちかタウンでの大々的な聖バレンティン展が開かれ今年は、ウンブリア州観光大臣アルド・ボテンツァ氏、テルニ市観光局長会長ウアルター・マッツィツリ氏らと、中世の古楽器のアンサンブル・ミクロログスのメンバーが、観光キャンペーンもかねての来神だ。十一日の夜、歓迎のレセプションが、神戸ポートピアホテルで開かれた。

植野社長は「四年程前からの交流ですが、ウンブリア州は、自然の美しさと、中世の文化遺産が素晴らしく、ミクロログスの中世音楽もウンブリア文化の証です。」と。今年は特に井上勝さんの作詞で「二月は愛」をこのチームが作曲し、日本語で歌って大拍手を受けた。

二月は愛
小さいものは大きく準備
大きなものは小さく準備
黒いものは白く準備
白いものは黒く準備
無口なものは話者準備
話者なものは無口準備
眠ったものは目覚め準備
目覚めたものは眠り準備
泣いたものは笑い準備
笑ったものは泣き準備
愛したものは愛し準備
愛されたものは愛され準備
どこでもどこでも二月は愛

関西年鑑 '88 年版

'88 KANSAI YEAR BOOK

B5判 総頁912ページ

特集：カラー口絵 本文8～9ホ タテ組（3～4段）

発行所／オール関西株式会社

定価 6,000円

昭和62年12月末日刊行

●予約受付中

見て楽しい読んで面白い知識・情報源。
待望久しき関西のイヤーズブック誕生！



本書の4大特色

- ① 関西の頭脳と精神を結集して、5つの視点から関西を診断し、未来を展望します。
- ② ビッグプロジェクトから町づくりまで関西新開拓の全貌を広角レンズでキャッチします。
- ③ 関西を創造し、世界へ飛翔する各界リーダー8000人の名簿。これを使えば関西が動かせる。
- ④ 従来の年鑑イメージを打ち破ったダイナミックな構成。気軽に読めて、使って重宝なハンドブックです。

関西エリアをカバーする

■内容目次

- 1 21世紀への関西展望
- 2 新関西創造のプロジェクト
- 3 私の関西展望
- 4 自治体の動向
- 5 関西人名簿
- 6 企画広告・コラム

●お問合せ・お申込みは

オール関西株式会社

〒530 大阪市北区曽根崎2丁目15-24 曽根崎ビル4F
☎06-363-1255(代)

K.F.S. 15周年を迎えて

——神戸ファッションのネットワークをめざして

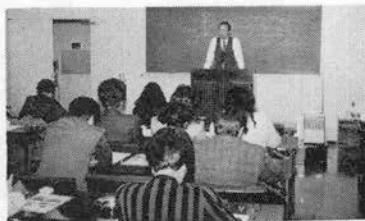
K.F.S. 会長 中島正義



今年はシンボルマークに竜の落し子をもつ我々 K.F.S. の年です。昨年7月に会長を引継いでより早や半年が過ぎました。

まず最初にマンスリーのより一層の充実を計ることを第一目標とし歩み出したのですが、それなりの成果は表われている様に思います。神戸ファッションソサエティが神戸で唯一の異業種のメンバーが集まる勉強会とし49年6月に産声を上げてより15年を迎えようとしております。わが K.F.S. の特色を充分活かした活動をしてゆかねばと思っております。今まで15年の集大成として、神戸市がファッション都市宣言をしてよりどの様に変ってきたか、又これからのファッション都市神戸がどうあるべきか、この様な色々な問題点がたくさんあります。我々 K.F.S. は、神戸ファッション・シンポジウム(仮称)を提唱したいのです。昨年12月、京阪神ファッションマンズ実行委員会より5年連続参加の感謝状と記念品を頂きました。ファッションマンズへの参加も考えて行きたいと思ひます。

神戸ファッション創造懇話会よりのファッション協議会(仮称)のプランニング作成も5月までの課題です。会員諸氏も K.F.S. の活動内容を充分にご理解いただき、今月のマンスリーにぜひご参集くださることをお願い申し上げますと共に、各位のご健勝を祈り上げます。



上／昨年11月のマンスリーは、税金がテーマ
下／昨年9月は オールスタイル川上社長を迎えた

●3月のマンスリーサロン

日時 3月18日(金)

6:30PM～

場所 神戸市勤労会館

(神戸新聞会館東側)

講師 小田 俱義氏

＜關イズム取締役社長＞

テーマ 私の人生観

※会場がいつもと異なりますご注意ください。



●1月・新年会便り……………

KFS の恒例新年会は、ごひいきの ViVi 有馬。1月15日に参加したメンバーは、中島会長、高橋、市野木副会長、荒津前会長、他20名。中島会長は「今年に15周年を迎えるので、京阪神ファッションマンズの秋に記念行事を企画したい」とはりきっている。

●新入会員

木庭広知

＜木庭産業 K.K.＞

私は紳士服地の販売及び製造を致しております。会長の中島さん、田中さんより御紹介を頂きました。入会すれば、いろいろと勉強させてもらえし、神戸ファッションや、ファッション全体の動きを、いち早く知る事が出来ると説明して頂き入会させて頂きました。何もわからず、いろいろと皆様に御聞きしたり、教えて頂いたりするかと思いますが、その時は「だれ？」と言う様な顔はせずによろしく、よろしく御願い致します。



★神戸の集いから

★健康と若返りへの道50年

津名郡五色町の五色県民健康村健康道場の名譽道場長、今村基雄さんが、「今村式絶食療法のすすめ」という著書を著し、光印刷の南部社長の呼びかけで出版記念パーティが開かれた。

1月23日、ゴルフポートピアで開かれた集いには、貝原俊民兵庫県知事を始め、渡邊一九元兵庫県医師会会長、糸川英夫組織工学研究所所長、溝口博久留米大学医学部同窓会会長、川嶋昭司奈良県桜井保健所所長他、およそ200名が祝いに駆けつけた。

今村さんは「神戸を今村式絶食療法のメッカにできれば」と、79歳には見えぬ若さで元気にあいさつに立った。

★若杉光夫さんを囲んで
南風会



若杉光夫さんを囲んだ南風会

南風洋子さんは、1月から2月末まで、芸術座の「放浪記」に出演。

★竹内良夫氏を迎え
関西電力のエネルギー懇話会の総会が、2月5日神戸ポートピアホテルにおいて、関西国際空港の動向をテーマに、竹内良夫社長を講師に迎え開催。約100人が集った。

出席者は、新野神戸大学長、柏井紙業社長、中内力ポートピアホテル社長、荒尾親成、水谷顯介、永谷晴子さんから経済界、文化界、ジャーナリストなど幅広く、加古康明神戸支店長は、「円高により関西電力が、消費者により安価な電力を提供して充実した市民の生活」と嬉しいメッセージ。

関西電力のエネルギー懇話会が、地元へのPRと二

イズを聞く、密度の濃い地域との交流ぶりを見せた。

★望月美佐小品集
ぎやらりー神戸時代で



望月美佐さんと共に



糸川英夫さん今村基雄さんを囲んで

ゲストの若杉光夫さんは今は亡き宇野重吉さんの想い出を語り、日本の新劇運動の偉大な牽引力を失ったことへの惜別を肝に銘じる内容で話された。

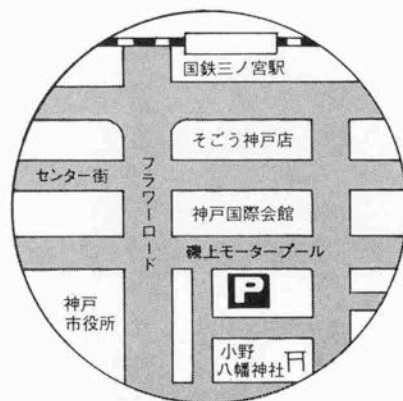
「十八番目のらくだ」は現代のソ連の新旧世代のギャップを描き軽快なコメディで、若杉演出が光っている。



竹内良夫社長を囲んで

望月さんは、3月25・28日に、日韓親善婦人の旅に慶尚北道大邱（ノ・テウ大統領の出身地）へ。また5月は、ドイツ・ブレーメンで全寮制の中・高校の開校式があり、「動の書」と教室を開く予定があり、7月にはオーストリア建国200年祭にシドニーで「動の書」を行うという世界的なスケジュールに張切っている。

ビジネスに!
ショッピングに!
ご利用ください



磯上モータープール

● 収容台数 350台
● 月極駐車可
● 年中無休
(神戸国際会館前) TEL (078) 251-2662 (8:00A.M.~11:00P.M.)

立岡佐智央のやあ、神戸っ子

K O B E ★街かどの肖像シリーズ〈3〉

これ、「無心」なりノ——春を呼ぶ少女剣士——

「面」「胴」「エエ、ヤアア」激しく打ち合う竹刀の音、かん高い少女たちの元気なかけ声、ここ兵庫中学校（兵庫区永沢町）の体育館では今日も40名近い男女剣道部員たちが練習に励む。昨年は市の総合大会で女子団体優勝（高見・斉藤・大矢・高地・宮脇）。その時先峰を務めたキャプテンの高見陽子さん（中三・一級）の姿。めっぽう明るい現代っ子だが竹刀を握ると、えっ、あの子が、と驚くほどの迫力のがんばり屋。試合の時ドキドキしませんかと聞くこと「全然、平気です」といって切る度胸のよさ、コレ平常心有ればこそ。「この子どもたちに剣道を通じて無心になることを学ばせたい」と語るのは、顧問の松崎京子教諭（数学）。ご自身がやはり中学からの剣道歴（三段）という、熱中・花の女流剣士。札に始まりて札に終る、とまで云われる剣の道、だが同時にこれほど激しく「攻め」を競う格闘技も他にはない。まさに鎬（刀厚）を削り合い攻防一致、さらに攻め込んでやっとな敵を庄することも可なり、という烈しさ。——が、しばし待たれ、このニッポン武道の真髄は運動神経のみにはあらず——と、どこからか聞こえて来そう。見よ、この無我・不動の構え、真によく敵を制するはコレ、【無心】なり——と。

汗を拭いながら（練習は）厳しいけれど友だちができてうれしいです」と朗らかに笑う少女剣士たち——コレ友情満開、剣先にも春のヒカリ有り。

